二〇二五年度

B国語問題

注意

一　試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。

二　解答用紙はすべて**黒鉛筆または黒のシャープペンシル**で記入することになっています。黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
（万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。）

三　この問題冊子は**20ページ**までとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は**一**～**三**となっています。

四　解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。

五　解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。

六　解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。

七　この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

一　マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。

二　一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。

三　訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1 ○ 2 ● 3 ○ 4 ○ 5

（3と解答する場合）

※　大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

・大問一　柳宗悦『「見ること」と「知ること」』
・大問二　藤田政博『バイアスとは何か』

三　左の文章は、『源氏物語』の「関屋」の巻の一節で、妻の空蟬（女君）とともに東国での任を終えて上京する常陸守一行と、石山詣でに出かける光源氏一行とが、逢坂の関で偶然すれ違った数日後、石山から帰京した光源氏が空蟬の弟（佐）を呼び寄せる場面から始まる。その昔、空蟬は光源氏との一度きりの秘密の逢瀬を持ったものの、人妻ゆえに光源氏からの求愛を拒み続けていて、その間、空蟬の弟が二人の間を行き来して手紙を運ぶ役目をしていたことがあったが、その後は十年以上も音信不通の間柄になっていた。これを読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

佐召し寄せて御消息あり。今は思し忘れぬべきことを、心長くもおはするかなと思ひゐたり。「一日は(1)契り知られしを、さは思し知りけむや。

A　わくらばに行きあふみちを頼みしもなほかひなしやしほならぬ海（注1）

関守（注2）の、さもうらやましく、(2)めざましかりしかな」とあり。「年ごろの途絶えもうひうひしくなりにけれど、心にはいつとなく、ただ今の心地するならひになむ。すきずきしう、いとど憎まれむや」とてたまへれば、かたじけなくて持て行きて、「なほ聞こえたまへ。昔には（注3）すこし思し退くことあらむと思ひたまふるに、同じやうなる御心のなつかしさなむいとどありがたき。すさびごとぞ（注4）用なきことと思へど、え［　　］すくよかに（注5）聞こえかへさね。女にては負けきこえたまへらむに、罪ゆるされぬべし」など言ふ。今はましていと恥づかしう、よろづのことうひうひしき心地すれど、めづらしきにやえ忍ばれざりけむ、

B　「逢坂の関やいかなる関なれば繁きなげきの中をわくらむ

夢のやうになむ」と聞こえたり。あはれもつらさも忘れぬふしと思しおかれたる人なれば、をりをりはなほのたまひ動かしけり。

かかるほどに、この常陸守、老の積もりにや、なやましくのみして、もの心細かりければ、子どもに、ただこの君の御事をのみ言ひおきて、「よろづのこと、ただこの御心にのみまかせて、(3)ありつる世に変らで仕うまつれ」

とのみ明け暮れ言ひけり。女君、心憂きすくせありて、(4)この人にさへおくれて、(5)いかなるさまにはふれまどふ(注6)べきにかあらむと思ひ嘆きたまふを見るに、命の限りあるものなれば、惜しみとどむべき方もなし、(6)いかでかこの人の御ために残しおく魂もがな、わが子どもの心も知らぬを、(7)とうしろめたう悲しきことに言ひ思へど、心にえとどめぬものにて、(8)うせぬ。

（注）
1　わくらばに――偶然に。
2　関守――関所の番人のこと。ここでは、空蟬を守る番人として、夫の常陸守のことを喩えている。
3　昔にはすこし思し退くことあらむ――昔よりも光源氏が自分を少し疎んじていらっしゃるところがあろう。空蟬の弟は、四年ほど前に権力を失っていた光源氏から離反したので、そのことで光源氏から疎まれていると推量している。
4　すさびごと――男女の慰み事。
5　すくよかに――そっけなく。
6　はふれまどふ――落ちぶれて途方にくれる。

問

(A)　〰〰線部(ア)～(ウ)は、それぞれ誰の動作・行為か。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

1　光源氏　　2　空蟬　　3　空蟬の弟　　4　常陸守　　5　子ども

(B)　――線部(1)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1　あなたとの逢瀬が改めてなつかしくなった
2　あなたとの約束を忘れていたことを思い出した
3　あなたが私を忘れていないことがわかった

4　あなたとの縁の深さが自然とわかった
5　あなたの運命を理解することができた

(C)　Aの和歌の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
1　「わくらばに」は「行き」の枕詞で、偶然にすれ違ったことの驚きの気持ちを伝えようとしている。
2　「ゆき」に「行き」と「雪」を掛け、道中、降ってきた雪のせいでお互いに苦労したことを詠んでいる。
3　「あふみち」に「近江路」と「逢ふ道」を掛け、期待していたのに逢えなかった無念の胸中を訴えている。
4　「かひなし」は「甲斐なし」の意味で、逢う約束が果たされなかったので甲斐がなかったと言っている。
5　「しほならぬ海」とは塩分を含まない淡水湖のことで、ここでは都の西にある広沢池のことを指している。

(D)　――線部(2)から読み取れる気持ちとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
1　しゃくにさわる気持ち
2　賞賛したい気持ち
3　眠れない程つらい気持ち
4　喜ばしい気持ち
5　悲嘆にくれる気持ち

(E)　空欄□に入る係助詞を記せ。

(F)　Bの和歌の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
1　「逢坂」の「逢」に「逢ふ」を掛け、その名の通り光源氏と逢えた関所だったことの喜びを伝えている。
2　逢坂の関はどのような関かと思っていたら、木が繁っていて通り抜けにくい関だったと言っている。
3　光源氏と逢えなかったのは、関所の番人のように自分を守って監視する夫のせいだと訴えている。
4　光源氏とすれ違っただけだったことを悲しく思い、本当に再会できるようにと逢坂の関に祈っている。
5　「なげき」は「嘆き」で「き」に「木」を掛け、繁る木をかき分ける如(ごと)く嘆きを重ねる憂いを詠んでいる。

(G) ――線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 かつての世の中
2 昔の生活
3 私が生きていた間
4 前世
5 本来の夫婦仲

(H) ――線部(4)を漢字に改めよ。（ただし、楷書（かいしょ）で記すこと）

(I) ――線部(5)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 気後れがして
2 愛情が足りなくて
3 裏切られて
4 しいたげられて
5 取り残されて

(J) ――線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 どうしてこの人のために私の魂を残しておくことができようか
2 なんとかしてこの人のために私の魂をこの世に残しておきたい
3 なぜこの人のために私の魂をこの世に残したいのだろうか
4 どう考えてもこの人のために残しておく魂はないのだろうなあ
5 どうしたらこの人のために魂を残しておく方法がみつかるのか

(K) ――線部(7)の現代語訳を五字以内で終止形で記せ。ただし、句読点は含まない。

(L) ――線部(8)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 忘れた。
2 諦めた。
3 出家した。
4 失踪した。
5 亡くなった。

(M) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 光源氏は、音信不通だった空蟬に対して手紙を贈ることを恥ずかしがっていた。
ロ 空蟬の弟は、空蟬に対して、光源氏への返事を書かないほうがよいと説得した。
ハ 光源氏は、空蟬と和歌のやりとりをした後も、時々空蟬に対して手紙を贈った。
ニ 常陸守は、大切な我が子を愛情込めて世話してほしいと空蟬に託した。
ホ 常陸守の子供たちは、父の言う通り、空蟬に対して心配りをした。

【以下余白】